

議事録

1 概要

議題・会議名	令和5年度 第4回学校運営協議会
開催日時	令和6年2月8日(木) 午後1時15分から3時15分まで
場所	静岡県立清水特別支援学校 会議室
出席者	外部委員4名 本校教職員10名 計14名
目的	学校と保護者及び地域住民等との間の信頼関係を深めるとともに、その権限と責任の下、保護者及び地域住民等の学校の運営への参画、学校運営の改善及び児童生徒の健全育成に取り組むものとする。

2 議事

会議の内容	<p>開会</p> <ul style="list-style-type: none">外部委員4名、本校教職員10名、計14名で開会した。 <p>校長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none">校長より、挨拶が行われた。 <p>「かがやき発信」取組報告</p> <ul style="list-style-type: none">地域連携課長、各学部主事より、児童生徒の変容、保護者や参加者からの声等について取組の報告が行われた。 <p>令和5年度 学校自己評価報告</p> <ul style="list-style-type: none">教頭より、今年度の学校自己評価の報告が行われた。 <p>令和6年度 学校経営計画(案)</p> <ul style="list-style-type: none">校長より、清水の良さを地域に広げていくことと特別支援教育の推進に力を入れて取り組んでいくということを踏まえ、来年度に向けた学校経営計画(案)が説明された。詳細は以下①～⑥のとおりである。<ol style="list-style-type: none">今年度は様々な挑戦を行い、学校の中に元気、笑顔、貢献、あいさつがたくさんになり、一定の評価が得られたこと。「挑戦する学校」から「清水とともにかがやく学校」としたこと。学校に向いていたベクトルを本校から外に向けていきたいこと。成果目標をこれまでの数値目標から、来年度は「こういう姿になっているという目指す姿」で表記したこと。各分掌が連携して取り組んでほしいという思いから、担当部署を中心部署としたこと。静岡型LMS、教育課程検討の二つのプロジェクトチームを編成して検証をしていくこと。
-------	--

グループワーク

・副校長からの趣旨説明後、以下をテーマに3班に分かれ、グループワークを展開した。記録は以下のとおりである。

<趣旨説明>

本校にはたくさんのゲストが来校され、学ぶ機会ができていますが、今度は外で子どもたちの作品展示、三保での松葉かき、野球チームはやての応援、清水区高校生とのコラボ企画など、校外でできる取り組み、発信できる活動として何ができるか考えたい。

<グループワークテーマ> 「清水とともにかがやく学校づくり」

【1班記録】

1 イベントの実施・参加

- (1) 現在、地域に発信をしているが、学校から学校、学校から関係機関など、対象が関係者のことが多い。
- (2) 地域の方が誰もが参加できるイベントを実施する。学校、福祉事業所、企業、関係機関等と連携して運営。歌、製品の紹介、イラストなど、それぞれの得意分野を発表する。
- (3) 福祉のまつりなど、コロナ以前に参加していた行事を再度確認して、積極的に参加をしていく。

2 児童生徒の作品

- (1) きれいで、整っている作品を展示している。子どもたちの個性ある作品を展示したほうが、感動をよぶのではないか。
- (2) 子どもたちは、考えていることすべてを表現しているが、大人の目線で考えたり隠してしまったりしていないか。

3 外部から見た清水特別支援学校

- (1) 清水特支はフランクな先生が多いが、もっと先生自身をさらけ出して、児童生徒との壁を取り除いたほうがよい。先生の得意なことを子どもに発信することで、子どもの新しい芽が出る可能性がある。
- (2) ひきこもりの子どもが増加する中で、いざ児童生徒がそうなった時の危機管理ができているか。準備をしておくことが大切である。

4 根拠のない感覚・発想

- (1) たいやきを販売している事業所が、かたい焼き菓子を作った。試食してみるとかたかった。それに、地域には高齢者が多いので売れるのかな？と思った。しかし、実際は売れ行きが好調であった。若い人たちの根拠のない感覚や発想は大事である。
- (2) 学校に置き換えたときに、授業内容を先生が決めることが多いが、子どもたちの考えや発想を取り入れていくことも大事であり、子どもたちに選択させる機会を設けると良い。

【2班記録】

- 1 「清水とともに」に込められた思い
 - (1) 「清水とともに」に込められた思いが、全職員、保護者、子どもたちに共有されていると身になっていく。アイデアを出してできても、それが最初に意図したことに向かっているかという評価が必要になる。「清水とともに」に込められた思いを知りたい。(A委員)
 - (2) 清水を見た時に、港がある、豪華客船が寄港する、みなと祭りがあある、七夕祭りがあある、富士山世界遺産があある、東海道五十三次の由比宿があある、エスパルス、はやて、バスケットチーム…学習を展開するにあたり、清水には本当にいいところがあたくさんあある。しかし、なぜか駿府公園や浜松など、遠くに向いている。もっと清水の子どもたちが清水の良さを知って、自分たちの住む所があこんないいところがあある、そうしたことを学ぶ中で、学校だけではなく、地域に出て活躍できるというつながりを広げたい、もう一度清水について学びたいというのが一番の思い。商店街に人を集めたいという声を聞いたり、夏休みに未来創造トークで区長と語る機会もあったりした中で、高校生たちと清水を活性化するという大きな地域課題に何か参画できないかという思いもああった。清水特支だけが笑顔、元気ではなく、清水地区があ笑顔、元気になるといい。(校長)
- 2 具体的に取り組めそうなこと
 - (1) 本校が発信して地域の方が喜んでくれるイベントをしたり、清水区から清水特支に依頼がきたり、作業製品も清水区とコラボしたものができたり、清水港に寄港する客船に学校のQRコードをつけて渡せたら…と思いははせることがあたくさんあある。その中で面白そうだなと夢中になって一緒に取り組むことができたらと思う。(校長)
 - (2) 中としては、SDGs と三保での活動をつなげたい。また、商店街の活性化を考えていきたい。(中主事)
 - (3) 清水区在住の先生はどの位いるのか。これから清水で過ごしていく子どもたちに清水の良さを伝えるには、先生方が土壌を知っていることが大切である。卒業後も視野に入れて、いろんな所の豊かさが、学校にいるときだけではなく、卒業後も接続して豊かな生活につながっていくビジョンがああるといい。彼らが教える側になるのはとても大切。学習指導要領でも言語化は大切と言われているが、お客さんに説明できたり、作業終わりに自分のやったことを説明できたりすると、そこで自信をもてて、やったことが深まるがあある。これは学校時代に培ってあげたいことであり、それができる子は、卒業後も力になる。(A委員)
 - (4) 先生たちは、自分の学校周辺を歩いたことはああるか。清水のいいところを掲示板で紹介するなどもできる。清水の企業も協力してくれるはず。高3生徒がこの学校を卒業する時に、どれだけ寂しいと思ってくれる人がいるか、寂しいと思ってくれる人を作るにはどうしたらいいか。校内で高3と小1のようにペアを作るなどして、小中学部の児童生徒が、高はあこがれる存在になって欲しい。そうした活動を縦割りで行き組むことも面白いのではないか。(A委員)

3 大切にしたい先生たちの意識や姿勢について

- (1) 生徒のアンケートには生の声がある。(校長)
- (2) 生の声は力がある。少しマイナスなことでも数値に表れないこうした声を見ていかないといけない。(A委員)
- (3) これまでコロナ渦でもあったので、先生たちがいろいろ教えてあげたいという思いから学習がギュウギュウになっていた部分があるので、少しゆったりと行きたい。会社の社長からは、意欲や主体性さえあれば仕事は教えると言われる。「それでいいよ」「頑張っているよ」という声をたくさんかけていきたい。(校長)
- (4) 先生たちが忙しいと思わせてはいけない。子どもは先生が忙しいと思うと相談できなくなる。来年度の取り組みを考えるのはいいが、それをすることで忙しいということになると良くない。本来、働き方改革は、時間を整理することでゆとりが生まれ、子どもたちと向き合ったり、保護者とじっくりと話したりする時間を増やしていこうとするものであるため、その目的を忘れてはいけない。個別の指導計画は保護者の同意があれば公開できる。放課後等デイサービスと情報を共有することに積極的に活用してほしい。(A委員)
- (5) 来年度からは、PTA総会も全校合同でやる。個別の指導計画の趣旨もしっかりと再確認し説明する。また、保護者、放課後等デイサービスなどは、共同支援者として、活動の様子も見てもらえるようにする。(校長)
- (6) 取り組みを、ホームページなどで紹介して欲しい。学校でやったことが家でもこうだという様子が、保護者の声としてあるととても良い。是非、アクセスしやすいところで紹介してほしい。(A委員)
- (7) 何か取り組みがあると、学校の様子を取材に来ていただけることが多く、県のXにアップされている。自校でタイムリーにできるようにしていかなければならない。(校長)

4 交流籍について

- (1) 元々は地域の小学校が主たる籍であるはずだが…。今までやってきたからただやるのではなく、どういう意味合いがあるのかももう一度問い直しながら、今までやれなかったこともやっていくことになる。(A委員)

【3班記録】

1 外部への発信

- (1) 「一気に広げる」ではなく、「ゆっくりと広げる」という考え方で良いのではないか。同じことでも継続していくことで、ゆっくりと確実に広げていける。
- (2) 作品や製品を展示するだけでなく、子どもたちの姿を見せたい。作品や製品の説明を児童生徒がする、作業の工程を見学してもらう等。子どもたちの取り組む姿に価値がある。
- (3) 「その場で見る」だけでなく、「持って帰ることができる」ことで、家でも目にする機会が生まれる。

2 「飯田まつり」に参加してみよう（提案）

(1) 参加の方法

- ・日曜日開催

→部活で 家庭の協力を得て地域ボラやPTA が引率できないか。

例) 清水特支に駐車し、会場（飯田小や飯田東小）へボランティアの方が案内する。社協が所有車で徒歩が大変な人を会場へ送る。

※子どもたちがどうやったら参加できるのかを考える！

(2) 参加の形

- ・外部の人とのかかわり

例) 作品の説明をする。製品の説明・販売をする。

※社協、たからじまのテントもあり、心強い（協力も得られる）

- ・間接的にかかわる（その中で直接的なかわりも）

例) 飯田まつりのチラシを印刷する（地域のを請け負う）

さらに、物だけでなく、注文・受付・引き渡しも生徒が行う（実体験の中で学ぶ）作品や製品の展示

子どもたちが説明をするメリット

- ・聞き手…その子のことや学習の様子を知ることができる

- ・伝え手…外部の方へ伝えるためのスキルの獲得の機会、伝わったことへの自信や達成感

販売のメリット

- ・製品を持って帰ることで、家に帰った後も本校の製品を目にする機会、本校のことを思い返す機会に…

- ・客…「作った人が売る」ことで購買意欲が高まる

- ・子どもたち…「売れた！」という自信、達成感、社会経験の機会に

※子どもたちが学習でやっていることに、価値を見出してアピール！

作業工程も価値あり！見せる(魅せる)工夫を！

3 その他、話題・提案いろいろ

- (1) 子育てトークの会（飯田社協）の12月の活動で秋葉山公園を利用
→小学部低学年とのコラボができるかもしれない。

- (2) 鈴与、いなば、IAI等、大きな企業や団体とつながろう。

法定雇用率2.3%…毎年0.1%ずつ上がっていく

→企業は特別支援に興味津々、知ってもらうために子どもたちの学ぶ様子を見学してもらえばどうか。

- (3) 子どもたちと接して楽しませてもらえる感（かかわる体験の提供）

例) 説明をする→イベント感が出る、やり取りが生まれる。

（まだ知らない人に、子どもたちの良さや面白さを味わってほしい）

「出向いて、何かの活動をする」>「作ったものを、説明する・売る」

（↑教員の負担の大きさが違うのでは？）

- (4) 小中学校の支援学級の保護者からの声として「どんな将来があるのかわからない」。支援学校では、「働く」ことについての学びの積み重ねがある。作品展示にプラスして、支援学級の保護者への相談会等があってもよい。